

第2節 学習に対する意識の比較

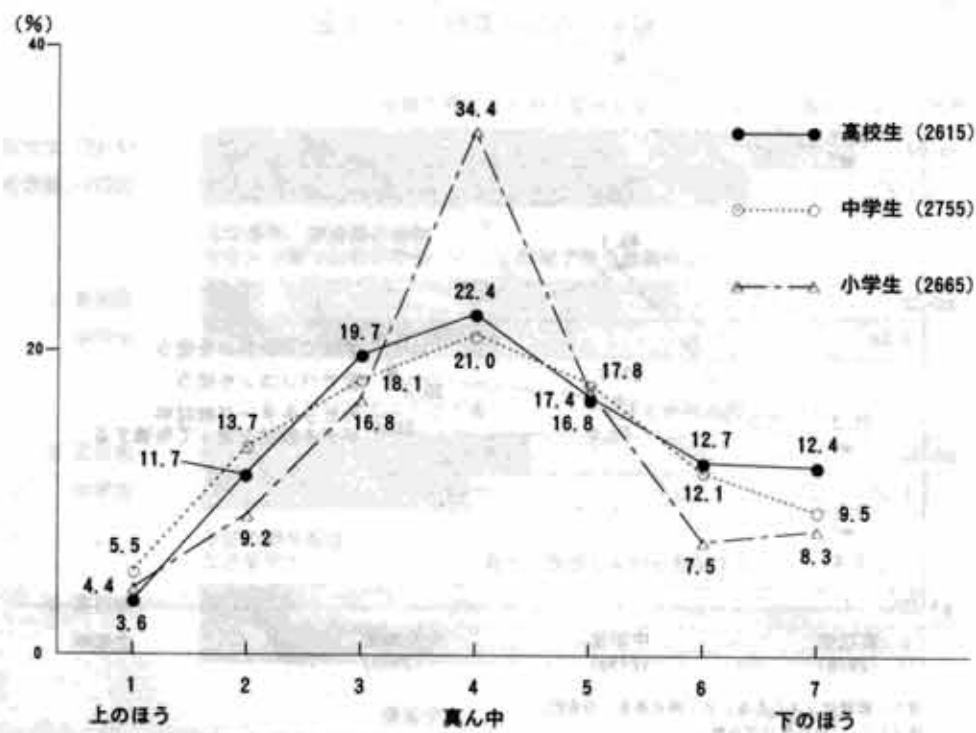
1. 成績観

(1) 現在の成績の自己評価
【中位集中型の小学生。正規分布型の中学生、高校生。】(図3-10)

図3-10は、現在の総合的な成績を自己評価させたものである。第一にわかることは、小学生の成績自己評価は、中学生、高校生に

比べ「真ん中」に集まることである。これに対して中学生、高校生は正規分布に近い分散を示しており、学校段階の上昇とともに成績の序列が明確になっていくことが明らかである。

図3-10 現在の成績自己評価



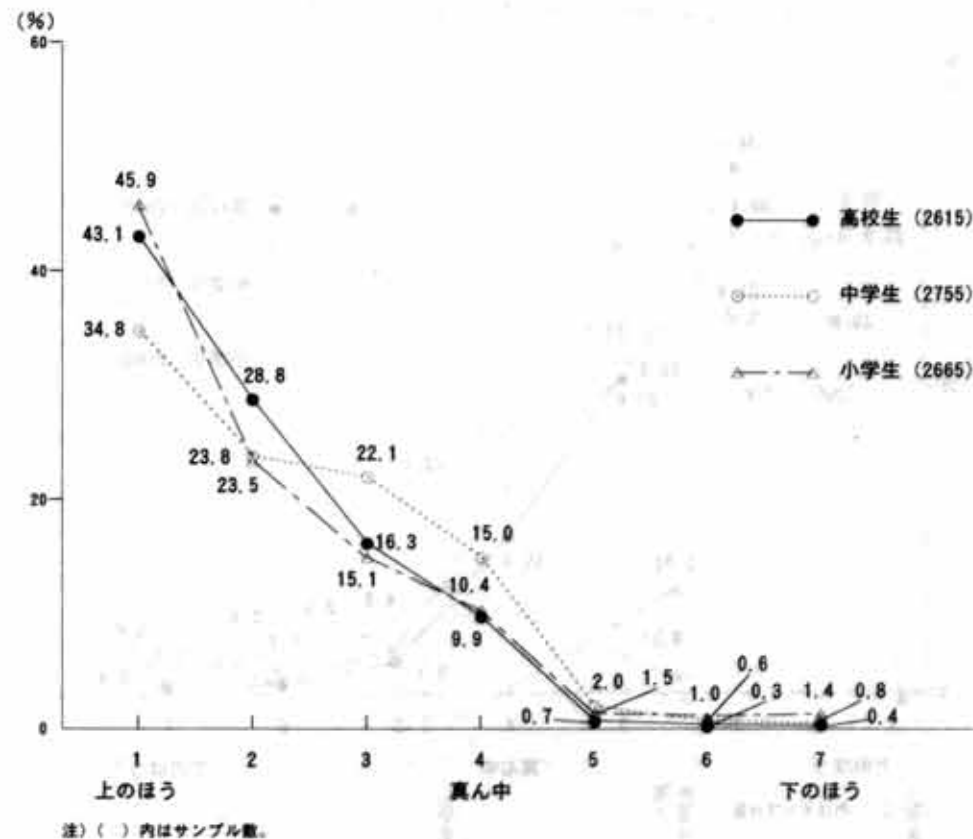
注) () 内はサンプル数。

(2) どのくらいの成績がとれたらいいか
【小学生と高校生は上位に集中。中学生はやや控えめ。】(図3-11)

どのくらいの成績がとれたらいいかを尋ねると、小学生、中学生、高校生ともに、「上のほう」から「真ん中」までを希望する者がほとんどである。ただし、小学生と高校生に

比べて中学生の希望はやや控えめであり、小学生と高校生のうち「上のほう」を希望する者は4割を超える(小学生45.9%、高校生43.1%)のに対して、中学生は3割強(34.8%)にとどまり、代わって中の上位~中位(カテゴリー3~4)の割合が多くなっている。

図3-11 どのくらいの成績がとれたらいいか



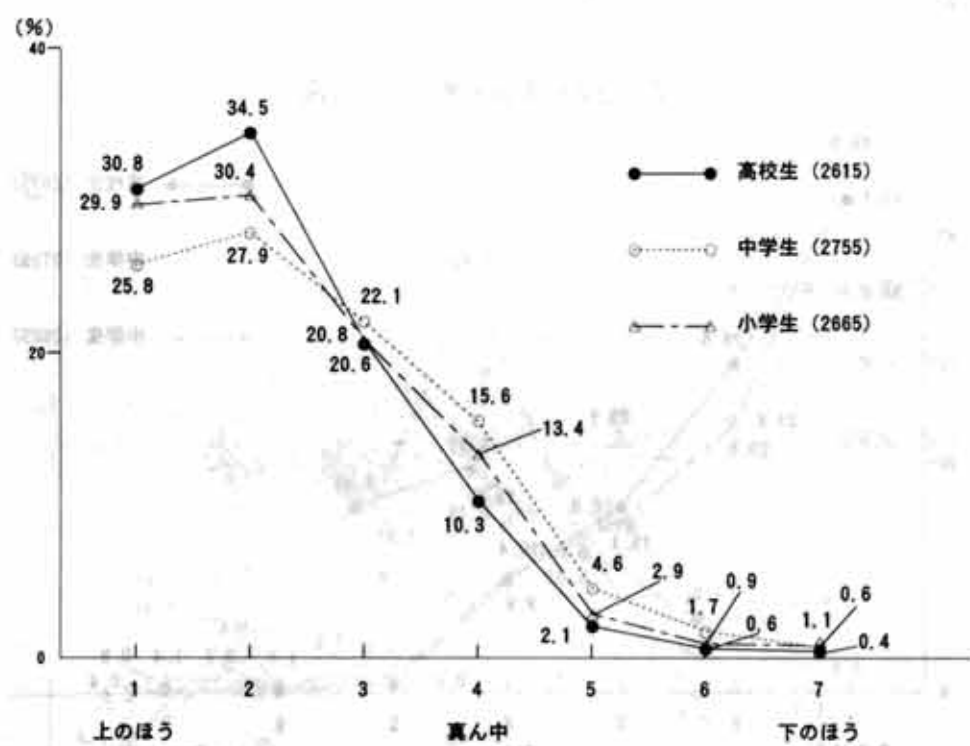
注) () 内はサンプル数。

(3) うんとがんばればとれる成績
【高校生は上位に集中。中学生は控えめ。】
(図3-12)

それでは、「現在の成績は別として、うんとがんばればどのくらいの成績がとれると思うか」を尋ねると、高校生は上位(選択肢1や2)に集中するのに比べて、中学生はやや低めを答えることがわかる。

「現在の成績自己評価」(前々項)をみると、高校生と中学生の成績自己評価はほぼ類似の分布を示している。にもかかわらず、「どのくらいの成績がとれたらいいか」(前項)や「うんとがんばればとれる成績」(本項)については、中学生の回答が高校生のそれよりも低めである点が共通している。

図3-12 うんとがんばればとれる成績



注) () 内はサンプル数。

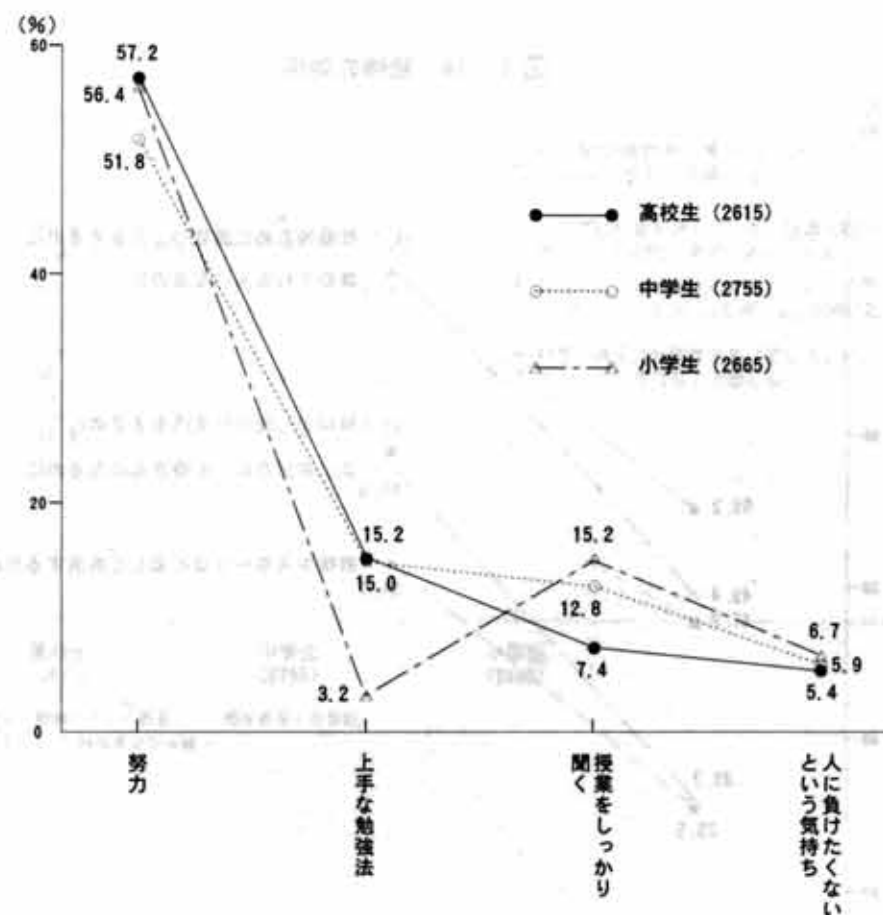
(4) よい成績をとるために大切なこと
【小学生、中学生、高校生ともに第1位は「努力」】
(図3-13)

よい成績をとるために大切なことを、「努力」「運」「上手な勉強法」「自分に合った問題集・参考書」「授業をしっかり聞く」「生まれつきの能力」「人に負けたくないという気持ち」「家族の協力」「よい学習塾や予備校に行く」「教え方の上手な先生」の10項目の中

から選択させたところ、小学生、中学生、高校生ともに半数以上が「努力」と答え、第1位であった。

続く第2位は、中学生、高校生では「上手な勉強法」であり、小学生では「授業をしっかり聞く」であった。なお、中学生、高校生の第3位は「授業をしっかり聞く」、小学生は「人に負けたくないという気持ち」であった。

図3-13 よい成績をとるために大切なこと



注1) 単一回答。

注2) () 内はサンプル数。

2. 学習観

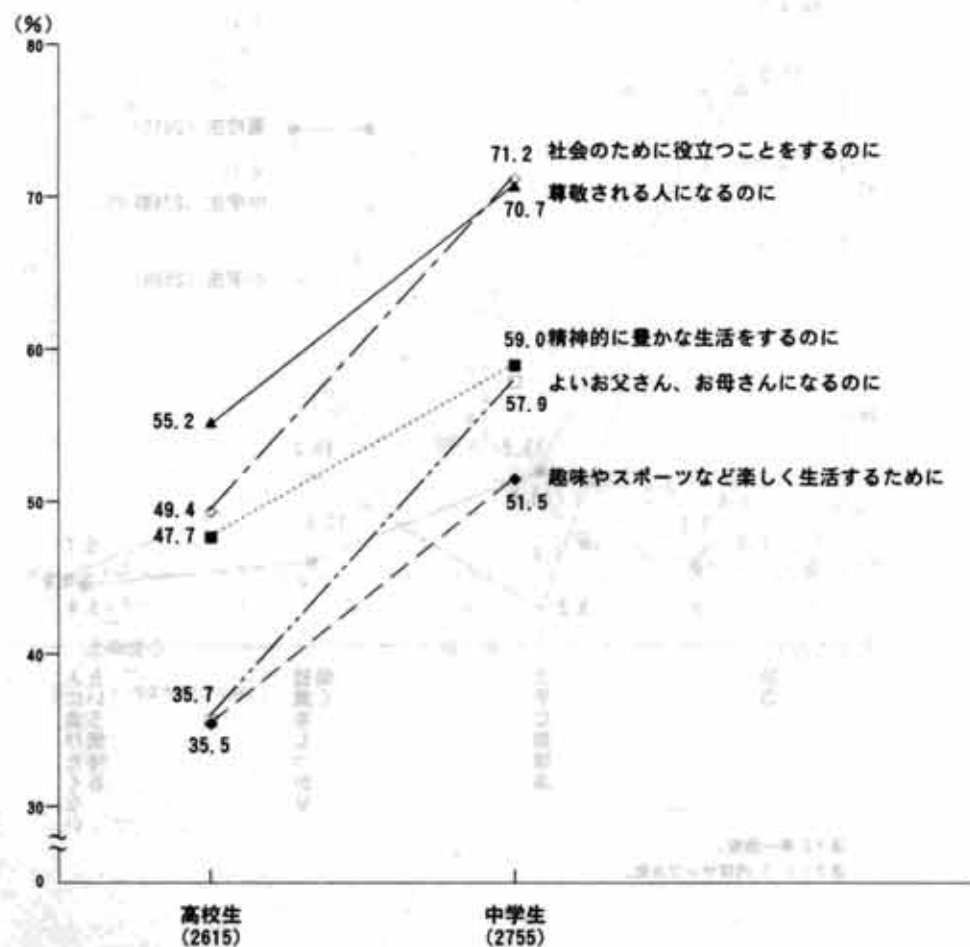
(1) 一生懸命勉強することの効用

【高校生は中学生よりも勉強の効用を限定的にみている。】(図3-14)

一生懸命勉強することがどのようなことに役立つと考えているのかを尋ねたところ、①社会のために役立つことをするのに、②尊敬される人になるのに、③精神的に豊かな生活をするのに、④よいお父さん、お母さんにな

るのに、⑤趣味やスポーツなど楽しく生活するために、の各項目をあげた者の割合は、高校生よりも中学生のほうが多かった。なお、「一流の会社に入るのに」「会社や役所に入って高い地位につくのに」をあげた者の割合は高校生、中学生ともに7割を超えていた。中学生のほうが高校生よりも勉強の効用を多面的にとらえていると言える。

図3-14 勉強の効用



注1) 数値は「とても役立つ」と「まあ役立つ」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

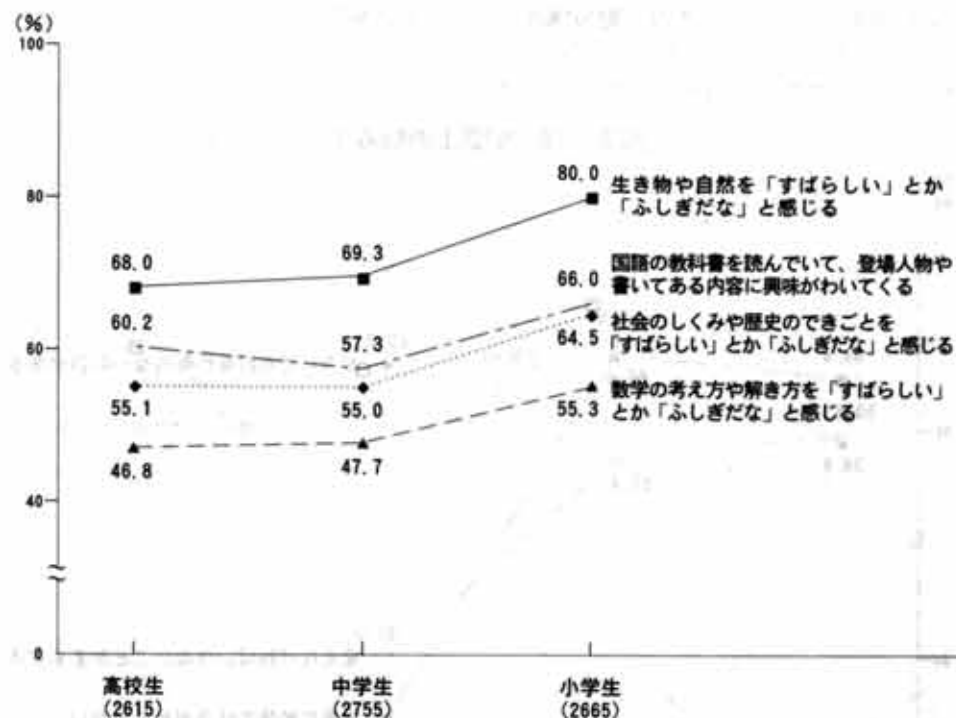
(2) 勉強をしていて感じること

【学校段階の上昇とともに、勉強から学ぶことが限定的になる。】(図3-15)

勉強をしていて、単なる知識の詰め込み以上のことを学んでいるかどうかを尋ねたものが図3-15である。図3-15からは、勉強をしていて①生き物や自然を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる、②国語の教科書

を読んでいて、登場人物や書いてある内容に興味をわいてくる、③社会のしくみや歴史のできごとを「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる、④数学の考え方や解き方を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる、⑤国語の教科書を読んでいて、登場人物や書いてある内容に興味をわいてくる、③社会のしくみや歴史のできごとを「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる、④数学の考え方や解き方を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる、⑤国語の教科書

図3-15 勉強をしていて感じること



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

3. 学習上の悩み

【小学生の悩みは「どうしても好きになれない科目がある」、中学生の悩みは「自分は生まれつき頭が悪いのではないかと思う」、高校生の悩みは「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う。」】(図3-16、図3-17)

学習上の悩みは、学校段階に応じて変化している。小学生の悩みは「どうしても好きになれない科目がある」ことであり、他の悩み

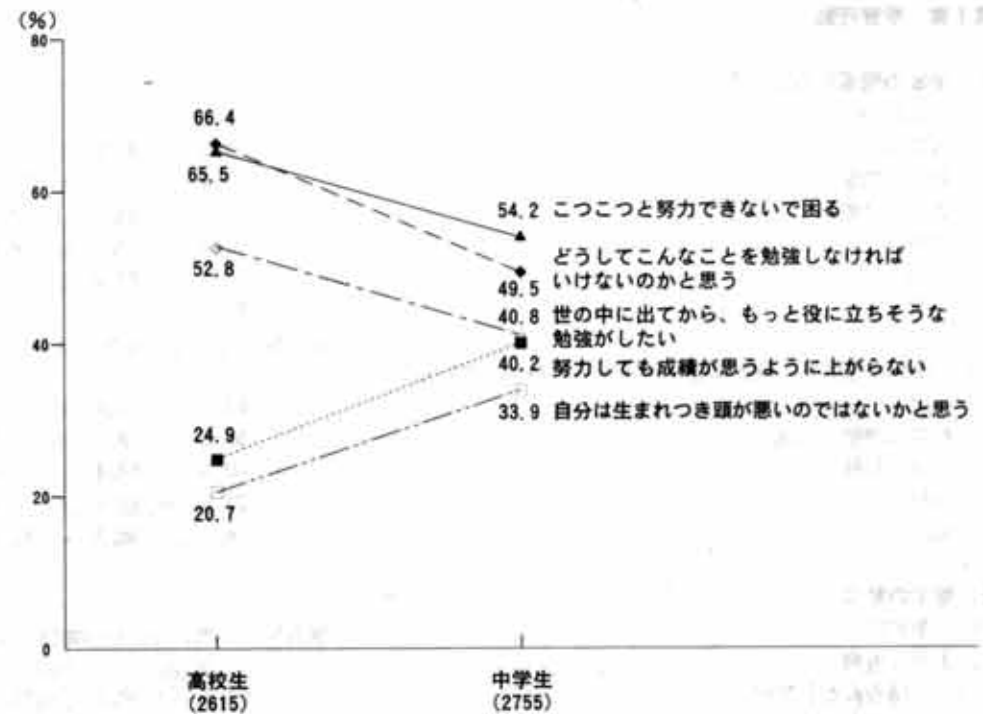
を持つ者は中学生、高校生に比べて少ない。中学生と高校生の悩みの違いは、中学生が「頭の悪さ」や「努力が報われない」など、能力観に関連する悩みを持つ者が多いのに対し、高校生は「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」「世の中に出てから、もっと役に立ちそうな勉強がしたい」など、学習内容に疑問を感じる者が多いことにある。

図3-16 学習上の悩み(1)



注) () 内はサンプル数。

図3-17 学習上の悩み(2)



注) () 内はサンプル数。